

ぼたんこしょう餅

平成 25 年、豊田農産物加工施設利用組合は新商品開発に取り組みました。「地元ならではの食材を使い、ここでしか食べられないものを作ろう。」そこで考えたのが、永江地区を中心に栽培されている信州の伝統野菜「ぼたんこしょう」を使った商品。ぼたんこしょう保存会の皆さんに協力を依頼し、試行錯誤の結果、「ぼたんこしょう餅」が完成した。餅は直径約 7 cm、厚さ 1 cm ほどの丸型。組合員が作ったもち米を使い、細かく刻んだぼたんこしょうを入れ、塩で味付けした。赤いぼたんこしょうを使っているため餅はオレンジ色をしている。ぼたんこしょうのピリッとした辛さがやみつきの餅は、焼いてからうどんやラーメン、鍋物に入れて食べるのがおすすめ。また、適当な大きさに切ってお好み焼きに入れてもおいしい。ぼたんこしょう餅を作るのは、イベントなどで活躍する惣菜班の皆さん。各部の仕事を掛け持ちしている 8 人のメンバーが、週 1 回、3 人で 200 個の餅を作っている。辛さの中にもおかあちゃんの優しさが詰まった一品です。



「ぼたんこしょう」は、ナス科トウガラシ属。味に深みがあり、程良いピリ辛を楽しめるのが特徴です。完熟すると赤くなります



左：楽しく会話しながらの餅作り
上：赤いぼたんこしょうが入ると餅がオレンジ色に染まる



ぼたんこしょう餅が2枚入ったボリューム満点の「カうどん」。道の駅ふるさと豊田で食べることができます





中野のチカラ

麻衣さん【中野市音楽親善アンバサダー】



日本全国の人に中野市の
素晴らしさを知ってほしい

本市出身の作曲家久石譲ひしじょうさんを父に持ち、レコーディングやコンサートのほか、作詞、作曲まで活動の幅を広げる麻衣さん。平成26年6月21日には、本市にゆかりの童謡・唱歌など音楽の魅力を情報発信し、本市を広くPRするため「中野市音楽親善アンバサダー」に任命され、翌22日には市民会館において「麻衣コンサート2014」を開催しました。今回は、ジャンルを超えた歌・音楽で中野を、日本を彩り、人と人の心をつなぐ麻衣さんにお話を聞きました。

○中野市のイメージについて

高野辰之博士作詞の「故郷」にある「かの山」「かの川」があり、周りの山々を見れば緑が青々として自然豊かで、農産物も豊富な魅力あふれる土地だと思います。

また、幼ない頃、縁日になると両親に連れられて王日神社に来ていたので、今でも王日神社に行くとき、とても懐かしい気持ちになります。



○音楽の魅力について

2歳からピアノを始め、5歳からは合唱団に入って歌い続けているため、私の人生は音楽と共にあるものだと思います。

音楽は、聞いたり歌ったりするだけでなく、さまざまな方法で音楽に関わることで「イメージや心を豊かにしてくれる」ことが一番の魅力だと思っています。また、落ち込んでいた時や自分を見つめ直す時も「励まし、救ってくれる存在」が、私にとって音楽なので、音楽にはそんな力もあると思います。

○中野市音楽親善アンバサダーに任命された抱負

「故郷」や「朧月夜」など、誰でも歌うことのできる歌を作られた方が、中野市出身ということを知らない人が多いので、日本全国の人にそのことをまず知ってもらいたいです。また、ニューヨークには「ニュー



ヨーク・ニューヨーク」といった歌があるように、その土地に合った曲があると思うので、アンバサダーとして「故郷」のように100年たっても愛され、口ずさむことができる「中野市のイメージソング」を作りたいと思っています。

この中野市の豊かな自然と素晴らしさを伝え、何度でも歌いたくなるような歌を、ぜひ市民の皆さんの協力を得ながら一緒に作り上げたいです。

○市民の皆さんに伝えたいこと

中野市は、たくさんの合唱団や音楽サークルがあり、音楽性の豊かな方がとても多いと思います。音楽は、自分がつまずいた時に「必ず救ってくれる力」があるので、どんなことでも良いから音楽を離れることなく続けてほしいと思います。

市内を歩いていけば必ず声を掛けていただき、いつも優しく接していただける市民の皆さんを私は尊敬しています。そんな皆さんと共に歩む音楽親善アンバサダーに任命されたことを誇りに、音楽と中野市の素晴らしさを伝えていきたいです。

